

大正・昭和初期の海女調査と真珠養殖における海女

—資料の紹介を中心に—

吉 村 利 男

1 大正・昭和初期の海女調査

- 資料1 大正・昭和初期の海女調査
- 資料2 大正11年 越賀村「職業婦人調査ノ件」回答
- 資料3 辻井浩太郎の4調査統計（県水産試験場）分析
- 資料4 町村（漁業組合）別「海女」人員の統計一覧
- 資料5 漁獲物別従業海女
- 資料6 海女の増減、移動の状況

2 真珠養殖における海女

- 資料7 『三重県水産試験場事業成績』第1巻に見る真珠養殖と蟹婦
（附）真珠介捕採ニ従事スル漁業者
- 資料8 『三重県水産試験場事業報告』にある蟹婦の記述
- 資料9 『真珠新聞』連載「父・御木本幸吉を語る」（乙竹あい著）に見る海女の記述
- 資料10 真珠養殖場設置反対「陳情書」に見る「蟹婦」

3 その他

- 資料11 昭和14年のサンフランシスコ万国博「海女」実演問題
〔補足〕辻井浩太郎『三重県地誌の研究』「志摩半島に於ける海女の地理学的研究」（1950.3）の中に
「明治四十四年頃は腰巻一枚で、上半身は裸体であつたが四十五年頃から襯衣に腰巻となつた。各地の博覧会の興行物に、志摩の海女として、赤の腰巻、上半身裸体の姿は真の海女のものでなく、低級な興行物化されたものである」と記される。

資料1 大正・昭和初期の海女調査

No.	調査時期	調査主体等	調査目的・観点等	調査の報告等	収録の書名、根拠等	備考
1	大正9	三重県衛生課	保健衛生事業の一部として御座村など「沿岸六村ノ蠶婦ニ就テ実査」	保健衛生調査第弐輯『蠶婦ニ就テ』三重県 大正10年9月	海の博物館『海と人間』30 2009.10	海女研：石原佳樹報告
2	大正11	東京市社会局	越賀村文書『庶務』（『三重県史』資料編近代4所収）「東京市社会局ニ於テ全国ニ亘ル職業婦人ノ調査ニ着手ノ趣ヲ以テ」、志摩郡役所は「本郡内蠶夫ニ関シ…取調」と各村に照会した模様（大正11年7月11日付け）	『東京市社会局調査報告書』12に「職業婦人に関する調査」（大正13年）（日本近代都市社会調査資料集成1 S B B出版1995所収）があり、目を通したが、蠶婦の記述なし。		越賀村の回答紹介（資料2）
3	大正11	三重県水産試験場	<p>（参考）漁村調査「基本調査ノ一部」大正10年末もしくは同11年3月末現在、各村ごとに地勢・交通・海況及魚介藻類ノ分布、戸数人口、漁船及魚類運搬船、漁業種類及変遷、漁獲高、水産製造物種類及製造者数、漁業組合、教育信仰風俗、副業、出稼など二十数項目について調査。特に海女に関する調査はない。ただ、「出稼」の項目に「（答志村）蠶婦出稼ハ舟三十艘蠶婦百三十名ニ及ビ…度会外海紀州方面ニ出稼スル」などの記述がある。</p> <p>（その他の海女の記述）神島村「鮑漁業 蠶婦漁業ニアリテハ鮑取ハ縦船一艘ノ距離アリテ漁業ヲナシ、胎介採ハ（建網漁）船ノ妨害トナラサル様礎ヲ卸シ…」・鏡浦村「教育信仰風俗…風俗ハ一般ニ淳朴質素ニシテ労働ニ励ミ女子ノ蠶稼ヲ為スモノ少ナカラズ」・安乗村「教育信仰風俗…風俗一般ニ質朴ナリ女子ノ蠶稼ヲ為スモノ少ナカラズ」・甲賀村「教育信仰風俗…風俗一般ニ質素ヲ尚ビ女子ノ蠶稼スル者多少アリ」・名田村「教育信仰風俗…女子ノ蠶稼ヲ為ス者多シ」・片田村「教育信仰風俗…風俗ハ一般ニ淳朴ナリ婦女子ノ蠶稼ヲ為スモノ少ナカラズ」・布施田村「教育信仰風俗…風俗一般ニ淳朴質素ナリ婦女子ノ蠶稼ヲ為スモノ少ナカラズ」・和具村「教育信仰風俗…風俗一般ニ質素ニシテ華奢ノ風ナク婦女ハ多く蠶稼ニ従事スル」・越賀村「教育信仰風俗…風俗ハ一般ニ質朴淳ニシテ克ク勤勞ニ努メ婦女子ノ蠶稼ヲ為ス者多シ」・御座村「教育信仰風俗…婦女子ノ労働顕著ナルモノアリ蠶稼ヲ為サザルモノ殆ンド稀ナリ」</p>	『大正十一年調査三重県漁村調査志摩郡之部』三重県水産試験場 大正12年3月28日発行		海女の出稼ぎについては塚本明「近代の志摩海女の出稼ぎについて」（『三重大史学』第10号）にリストアップされている
4	昭和4	三重県水産試験場	本県ノ海女（あま）ニ就テ最近調査シタルトコロニ依レバ人員三千六百二十四名ヲ算シ、海女ノ本場志摩郡ハ三千六百十四名ニシテ残り十名ハ度会、北牟婁両郡各五名ナリ。志摩郡ノ海女ガ一年間ニ採取スルあわび、さざえ、てんぐさ等金額四十万円ニ達ス、海女従業者ノ総人員ニ対スル年齢別ノ割合ハ三十歳以上四割八分、二十歳以上三十歳未満三割四分ヲ占メ、十九歳以下子女ハ一割八分ニ満タズ、従業者ノ最年長者ハ七十三歳ニシテ最年少者ハ十五歳ナリ。海女ノ潜水スル深サハ普通七、八尋迄（一尋ハ五尺）ナレドモ、「ハイカラ海士」ト称スル重錘使用者ハ十五、六尋ニ達シ、之ノ人員ハ千八十五人ニシテ総人員ノ約三割ニ当ル。海女ノ所属漁業組合、人員、年齢別、漁獲高ヲ表示スレバ左ノ如シ（別表）	三重県水産試験場『通報』第弐号「本県ノ海女ニ就テ」昭和4年7月	「三重県水産試験場時報」1～20合綴（水産研究所図書室所蔵）菅島村役場文書「三重県水産試験場通報綴」（鳥羽市教育委員会所蔵）	別表（資料4）

5	昭和4	三重県学務部長・千葉県学務部長	<p>(三重県学務部長から事前に照会4.7.27) (千葉県学務部長からの依頼4.10.21) 「一、潜水労働者数 二、イ潜水労働者ノ雇備方法 ロ賃金 ハ男女別一日漁獲高(平均) 二作業ノ季節 ホ年齢」について照会</p> <p>(菅島村の回答) 「一、潜水労働者数 一般潜水 本業トスルモノ 男なし 女 鮑類捕採 四八 海藻類捕採 四八 計九六 副業トスルモノ 男なし 女 鮑類捕採七二 海藻類捕採七二 機械潜水なし 二、イ潜水労働者ノ雇備方法 雇備関係ナシ ロ賃金 ナシ ハ男女別一日漁獲高(平均)七拾銭 二作業ノ季節 自六月至九月 四ヶ月間 ホ年齢 男(ナシ) 女(拾五歳ヨリ四拾五歳マデ)」</p>	名古屋地方職業紹介事務局の『三重県志摩半島「海女」労働事情』(昭和9年3月)によれば、 <u>千葉県社会課「潜水労働者の分布」(昭和6年6月)</u> として全国状況がまとめられた模様(未見)	菅島村役場文書「昭和四年水産」(鳥羽市教育委員会所蔵)	次の『三重県志摩半島「海女」労働事情』に一部引用「我国潜水労働者計二〇、六七〇人 三重県三、五五四人 朝鮮八、八六二人」
6	昭和9	中央職業名古屋地方事務局	<p>(新聞『三重日報』9.7.7記事) 本県の海女五千三十七人で 断然日本第一位 中央職紹名古屋地方事務局調査 一日の収入最高十円</p> <p>(新聞『伊勢新聞』9.7.8記事) 流石に志摩は海女の国 数調査に現れた面白い傾向 総数五千三十七人うち志摩が三千五百五十四人を占め(間違いか)</p>	名古屋地方職業紹介事務局の『三重県志摩半島「海女」労働事情』(昭和9年3月)	県史編さん室所蔵 『日本民俗文化資料集成』(1990年 三一書房)にも収	今志摩郡各村に照会して解答を得た(資料4及び6)
7	昭和11	文理大青野壽郎	<p>(新聞『三重日報』11.6.18記事) 「半島漁村調査」海女の村は何処も 同じ” 嬉天下” 研究すでに七年に亘る篤学の 文理大学青野氏が来県 東京文理科大学地理学教室青野壽郎氏は去る(6月)十五日から三重県に出張、県水産課において紀伊半島に関する調査をなすつゝある、同氏は昭和五年より房総、伊豆、紀伊三半島の人文地理学研究に着手し日本学術振興会から研究費を得て房総、伊豆南半島の調査をなし、本年一月から紀伊半島の調査にとりかゝり明後年までに調査を終へ昭和十五年までに十ヶ年がかりで調査研究を完了する</p> <p>(新聞『伊勢新聞』11.7.12記事) 成程海女の本場 志摩は女の天下 紀伊半島漁村に四つの対照 文理大青野氏の研究 東京文理科大学青野壽郎氏は十ヶ年計画によつて紀伊半島における漁村の地理学的研究に着手、すでに第六年目になるが、今日までの研究の結果を第一報として地学雑誌に発表すると共に数日前から県水産課にあつて更に研究を進めてをり、その結果本県特に紀伊半島における漁村の地理学的研究を明かにされやうとしている</p>	「水産統計より観たる紀伊半島東部沿岸漁村一紀伊半島に於ける漁村の地理学的研究 第1報一」『地学雑誌』第48号 昭和11年6月、「紀伊半島東部沿岸漁村の地域区分一同第3報一」『地学雑誌』第50号 昭和13年5月	『漁村水産地理学研究〔2〕』青野壽郎著 集Ⅱ 古今書院 1953年	海女については統計資料などなく、「湾口諸島嶼及び志摩半島には概して女の数の相当多いのが著しく注意を牽く。これは所謂志摩海女の分布と一致するからこの女の漁撈者は海女であろうと考えられる(注:辻井浩太郎「志摩半島雑観」『地理教材研究』第15輯 昭和6年3月)」(資料3)
8	昭和11	国か県と思われが、明確でない。	(新聞『大阪朝日新聞 三重版』11,8,7記事) <u>海女の国勢調査</u> 近く一斉に実施 志摩、度会、北牟婁郡にかけて概数三千六百と称せられる本県独特の海女について関係四十五ヶ町村を動員して一斉に各般の調査が行はれる一これは潜水漁業の現状ならびに将来の対策を研究するための資料となるもので、県では昭和四年ザツと調べた記録ある以外正確な基礎となる材料がとぼしいので関係町村当局に通牒して人数、年齢、潜水深度、潜水時間、漁獲高、従業日数、出稼ぎ状態、後進海女の養成方法その他 きはめて詳細に報告させる、いはば”海女の国勢調査”で、これがまとまればお国自慢の全貌がはつきりすることであろう	鳥羽市所蔵の村役場文書に明確な文書見られない。どういふ形でまとめられたのか不明		
9	昭和11	三重県立志摩水産学校	<p>(志摩) 郡下各町村役場 同漁業組合御中宛 「海女ノ身上調査ニ関スル件」11.9.8付け 「本校ニ於テ海女ノ短期講習計画ニ参考ニ資シ度候ニ付」</p> <p>(菅島漁業組合長の回答) 「未婚者一七才~二〇才 一六 二一才~四五才 六 計二二名 既婚者 二一才~二五才 一一 二六才~三五才 三四 三六才以上 五三 計九八名 合計一二〇名</p>	最終的にどうまとめられたか不明	菅島漁業組合文書「昭和十一年十月吉日 文書綴」(鳥羽市教育委員会所蔵)	

越賀文書『自大正八年一月庶務』（『三重県史』資料編近代4）

原簿番号 庶第三九四号 原簿ノ日付 大正十一年七月十一日
 本文書番号 庶第二二四号 本文書発行日 大正十一年七月二十四日

志摩郡役所御中
 越賀村長 小川 繁 治

職業婦人調査ノ件
 標記ノ件左記ノ通り及回答候也

調査事項	大正六年事實	大正十一年ノ事實
調査員數	百七十一人	百六十七人
収入(最高)	最高 一、二九、九〇〇圓	最高 一、五三、一〇〇圓
最低(平均)	最低 一、六九五圓	最低 一、二五五圓
平均	平均二八、〇二〇圓	平均四六、〇三〇圓
年令	百十六才 至 五十才	百二十才 至 五十五才
收穫ノ時期	九月末日	四月 至 九月末日
生活狀態	生活ノ程度低キヲ其末作業時期ニ至 ルニ健康ヲ増進スル為メノ福地増進 品及ビ娯樂品等ヲ採集ス	同 上
結婚教育程度	結婚ハ十六才より二十才ニ至ル間 ニ於テ結婚ヲナスモノ多ク結婚シテ年 滿ナシ	結婚ハ同上
附記	教育ノ程度低キ者多ク、結婚後ハ義務教育ヲ受ケルモノ 亦多ク、年令三十才以上ノ者三十五才、又四十才以上ノ者 ノ者ハ半端者多ク、又四十才以上ノ者ニテハ年令過半及ビ結婚育ノ者 上ノ者コトハ無教育ノ者多シ	大正十一年ハ漁期中ナルニヨリ収入欄ハ六月末日迄 ノ事實ヲ調査記入シタリ

「志摩半島雜観」『地理教材研究』第15輯(昭和6年3月発行)

一 海女の分布と地形の關係
 志摩の海女は古来著名なもので、第一図(甲)の如く三重県下の海女総數三六二四人中志摩が三
 六一四人を占め、残る一〇人は伊勢の度会郡田曾浦(図中A印)と紀伊の北牟婁郡長島(図中B印)
 に夫々五人宛あるのみで、全く志摩半島特有のものである(昭和四年度三重県水産試験場、所在地
 志摩郡浜島町)。

而して、此の志摩に於ける分布は第二図(乙)の如く外面に面する地方に限られ、しかも、その数は
 前面の海岸の岩礁、暗礁の數に正比例してゐる。海女は主として、てんぐさ・ふのり・あらめ・あは
 び・なまこ・いのかい等を採集するもので、砂浜海岸よりも岩石海岸がその作業に適し、岩礁、暗礁
 の多き処は収獲物の多いたためである。殊にてんぐさ・ふのりは陸水の注ぐ処は絶対に繁殖しないから、
 内海には海女の分布を見ないのである。

唯一ヶ村英虞湾の神明村(図中の○印)に六十二人あるのは最近まで、その多徳島に御木本の真
 珠養殖場があり(現在は五ヶ所湾に移る)、英虞湾は重要な真珠貝養殖地なるを以て、これを採集す
 るため、浜島(図中D印)五十人と共に分布してゐる。真珠母貝の採集期になれば先志摩の海女が沢
 山入稼する。

二 女の労働と季節時出稼

A 女の労働(略)

B 海女の年齢的統計と冬の作業及びハイカラ

三重県水産試験場の調査によると、昭和四年度に於ける海女の總數三、六二四人中
 三十歳以上 一、八二二人 全体の五〇% 二十歳以上 一、一八五人 全体の三三%
 十九歳以下 六二七人 全体の一七%

右の如く中年以上の者多く、五十歳は海女として働らく。一般に若い時代海女を稼ぎし者は長命する
 といはれる(志摩郡は長命者の多いこと県下第一位)。

海女の夏作業はともかく、寒中一月から二月にかけて答志島、鏡浦村の石鏡、長岡村の国崎の海女
 が海中に入り、なまこを採集することは余り知られていない。これはなまこの最上品(支那輸出向)
 は寒中でなければ採れないからである。その他わかめ・さざえ・鮑など早いものは二月の末から採集
 が始まる。

浅い海では漁獲物が少ないから、海岸を遠く離れた沖の暗礁に獲物を探す。此の時は十数尋をもも
 ぐらなければならぬ。深いために普通にもぐつては海底で働らく時間がない。そこで、彼女らは一刻
 も早く底に達するために鉄の錘を抱いて飛び込むのである。海底に達すれば船の上の男(多くは彼女
 の夫である)は、先づ錘を引き上げて海底からの合図を待つ。底の女は息が続かなくなると腰の縄を
 ひいて船の上に合図して引き上げて貰ふ。此の作業は大正七、八年の好景氣時代に出来たもので、ハ
 イカラと称し、三、六二四人中一、〇八五人はこれに従事している。

資料4 町村(漁業組合)別「海女」人員の統計一覧 (戦前を中心に)

村名 4 の漁業組 合名をも とに	1 大正 9年『蟻 婦二就 テ』	4 昭和4年三重県水産試験場『通報』1号					6 昭和9年『三重県志 摩半島『海女』労働事 情』			参考① 昭和 13年(水産局徳 久三種氏調査)		参考② 昭和24 年	参考③ 昭和27 年
		総人員	30歳以 上	20歳以 上	20歳未 満	昭和3年 漁獲高: 円	計	徒人	船人	海女	海士	『三重県 地誌の研 究』	上村角兵 衛氏調査
小浜		4は小浜データなし											2
桃取		4は桃取データなし											40
答志	答志595	174	91	68	15	14,434	答志546	483	65	502	31	答志	140
答志和		91	57	24	10	2,150				113	0	1,000	
神島村	120	94	?	?	?	8,651	165	135	30	148	0	95	
菅島	130	4は菅島データなし					243	200	43	120	0	892	
安楽島		4は安楽島データなし					9	7	2	14	5	加茂	32
浦村		4は浦村データなし								12	0	鏡浦	298
石鏡		350	100	150	100	50,000	166	60	106	202	2		390
国崎		163	106	33	24	11,400	189	108	81	224	146		
相差		317	204	55	58	47,771	350	170	180	339	0		
畦蛸	長岡572	7	7	—	—	210				16	0	長岡	796
千賀・堅子		4は千賀・堅子データなし								51	2		
的矢村		3	3	—	—	120						100	
安乗	344	400	100	200	100	25,157	486	430	56	587	0	301	
国府村		4は国府データなし					6	5	5	14	0	25	
甲賀		127	68	44	15	11,812	140	80	60	210	0	212	150
志島		213	95	81	37	9,324	127	107	20	189	0	192	86
立神村		4は立神データなし					30	30	30	79	13		40
畔名村		103	63	25	15	5,628	100	70	30	361	0	200	185
名田村		120	48	47	25	3,320	75	70	5			52	180
波切村	1,523	228	132	51	45	22,538	471	420	51	242	0	200	
船越村	757	185	104	31	50	34,847	165	120	45	184	0	247	152
片田村		152	65	61	26	36,976	285	240	45	615	0	408	285
布施田	750	263	160	84	19	40,835	405	365	40	162	0	220	
和具村	1,232	170	100	40	30	41,743	570	500	70	530	0	501	516
越賀村	582	163	73	79	11	13,730	250	220	30	95	0	166	
御座村	352	179	74	71	34	11,090	190	150	40	203	0	215	
神明村		62	27	24	11	1,430	30	—	30	93	9	100	100
浜島		50	36	12	2	7,500	37	27	10	50	0	55	76
田曾浦		5	3	2		150				6	44		
南海村磯浦		4は南海村データなし								5	0		
長島		5	1	4	1	500							
計(資料 の表記)	—	3,624	約1,760	約1,220	約50	401,216	5,037	4,027	1,047	記述なし	記述なし	6,066	記述なし
計(表計 算上)	4,218	3,624	1,717	1,186	628	401,316	4,489	3,997	1,074	5,366	252	6,349	—
	注1	注2					注3			注4		注5	注6

- 注1・「長岡、波切、船越、布施田、和具、越賀村ノ六村ハ蟻婦ノ身体検査ヲ実査シタル諸村ニシテ其ノ蟻婦ノ数ハ村治者ノ推断ニヨリ老幼者ヲ除キタル現住女子ヨリ算出ス、御座村ハ保健調査実査地ニシテ蟻婦実数ナリ恰モ老幼者ヲ控除シタル現住女数ヨリ其ノ一割ヲ減シタルモノニ合致ス、本表以外ニ蟻婦ノ存在スル桃取、坂手、鏡浦、国府、甲賀、志島、畔名、名田、片田等ノ諸村アルモ調査ヲ缺ク」
- 注2・「之ノ外男子ニシテ裸潜リスル者、度会郡田曾浦六十名、志摩郡答志十九名アリ、数年前ハ志摩郡ヨリ朝鮮ニ出稼シタルシガ、近年ハ朝鮮婦人紀州方面ニ来リテてんぐさ採取ニ従事スルモノ約三十名アリ」
・辻井浩太郎「志摩半島雑観」『地理教材研究』第15輯(昭和6年3月発行)に利用して分布図と分析している(資料3)
- 注3・「徒人(カチド)の海女とは重錘不使用者、船人(フナド)の海女とは重錘使用者を云ふ」
・辻井浩太郎「志摩半島における海女の地理学的研究」『三重県地誌の研究』(昭和31年6月発行)に昭和24年との海女増減表に利用
- 注4・数値は瀬川清子『海女』(古今書院 1955年)から再掲(「昭和一三年農林省水産局漁政課の徳久三種氏が海士・海女の所在地及びその数を地方に照会して得られたものであるが、報告の基準がまちまちであり」、また同書には西武夫氏の全国統計(三重県海女3,744人、海士79人、全国海女18,831人、海士18,512人)のデータも掲載。瀬川自身も1938年国崎等調査(『若者と娘をめぐる民俗』)
・中山卓「志摩地域海女操業調査の結果報告」(『海と人間』6 1978)では志摩地域の海女に限り掲載。ただし、立神・神明を除く。志摩地域海女合計5,183人
・香原志勢「海女の分布の生態学的考察」『民族学ノート』1963(谷川健一編『海女と海士』三一書房1990に収録)も1938年「徳久三種」調査としてあげているが、三重県全体で「男250、女5366」となっている
- 注5・辻井浩太郎「志摩半島における海女の地理学的研究」『三重県地誌の研究』(昭和31年6月発行)、「昭和24年8月調査」と記されているが、何の調査に基づくものか不明。「海女の漁獲」に関する記述について注に「三重県統計課 統計月報 第一号(昭和二十四年)」とあるが、関連ない。
・中山卓「志摩地域海女操業調査の結果報告」では『鳥羽、志摩漁撈調査報告書』典拠としている(『同報告書』では「辻井浩太郎著三重県地誌による」と表記)
- 注6・上村角兵衛「Ⅱ動力以前の漁法と漁場」『鳥羽、志摩漁撈調査報告書』(三重県教育委員会 昭和43年発行)に「筆者が昭和27年に調査したもの」と記しているが、全地区に及んだものではない。

資料5 漁獲物別従業海女（『三重県志摩半島「海女」労働事情』より）

町村名	海女数	従業海女(名)								
		鮑	栄螺	天草	若布	荒布	搦布 カジメ	海鼠	伊勢蝦	真珠介
答志村	547	○	○	○	○	○	○	○	○	
神島村	165	165	165	—	165	165	—		105	○
菅島	243	243	243	243						其他海藻類243
加茂村安楽島										
石鏡										
国崎	189	189	133	133	133	133	180	189		
長岡村相差	350	350	200	350	350	350	350	○	200	
畦蛸										
的矢村										
安乗	486	486	486	486	486	486	486			其他486
国府村	6	6	6		6	3				
甲賀	140	60	60	126	140	135	128			
志島	187	103	103	51	150	187	187			鬼草150、鳥豆草150
志島	127	127	127	127	127	127	127			ノリ127
立神村	30								30	
畔名村	100	15	30	100	100	65	○		○	
名田村	75	○	○			○	○			ヒジキ
波切村	471	50	50	200	350	450	450	50	100	—
船越村	165	200	320	120	100	400	○	○	○	○
片田村	285	285	285	285	285	285	285			○
布施田村	405	240	240	200	30	250	250	5		500
和具村	570	○	○	○	○			○	○	
越賀村										
御座村	190	30	200	210	88	○	225	30	70	
御座村	190	30	190	190	88	190	190	30	70	
神明村										
浜島町	37	37	○	○						30

※色塗りは村名の間違いか重複して回答が掲載されている箇所

資料6 海女の増減、移動の状況（『三重県志摩半島「海女」労働事情』より）

町村名	当時の状況
浜島町	本町に於ては増加の傾向にあり、他村より妻として迎へ、夫婦共稼をなすによる。即ち夫は船中に於て妻の漁獲せるものを整理し、或は海底の妻と棕櫚繩に依り連絡をなし、信号に依り海上に浮上る為め繩を引張り、短時間に浮揚せしむる務をなし、常に海中の活動に注意す。
答志村	逐年減員の状況にあり、其事由を列挙すれば 一、近年都会熱旺盛になり処女時代に他出するもの多き傾向あるに因る。二、潜水機、其他海底作業機械の発達に因る。三、漁獲物の減少も一つの原因となつてゐる、
神島村	専業海女は減少の傾向あるも副業的海女は逐年増加しつゝある。
神明村	近年水産業の発達に伴ひ真珠母介採取するもの頓に増加し海女をなすもの増加す。本年は漁業組合より奨励し、大に海女の養成の見込なり。
甲賀村	増加の傾向にあり、其理由は他に女子の稼業として適當なるもの無きに因る。
志島村	人口の増加に伴ひ年々増加す。
片田村	年々海女の増加を来しつゝあるも、都会に於ける紡績業等の振はざる為めと農業は耕地なき為め止むなく海女となり居る状態なり。
布施田村	海女は年々増加しつゝあり、其理由は小学校卒業の女子は大体に於て海女に従事する故増加す。
船越村	海女人数増加せり、其理由一般的不況の為、他地方への出稼ぎ減少せしに依る。

資料7 『三重県水産試験場事業成蹟』第1巻(明治38年4月発行)に見る真珠養殖と蠶婦

題: しんじゆかひ養殖試験

目的: 一定区域内にしんじゆかひヲ放養シ或年限ヲ経過シテ捕採スル事、採苗法ヲ講ジテ稚介即苗介ノ採取ヲ謀ル事、經濟上ノ価値ヲ定ムル事

場所: 浜島海中養殖場(4,986坪)、越賀海中養殖場(3,435坪)を設定し、明治33年2月岩石を投入し、附着床を造

頁	項目	海女の記述内容	備考
18~22	六、産卵と発生及採苗法	本場ニアリテハ先ツ苗介トシテ可要稚介ヲ捕採センガ為メ毎年八月ニ於テ蠶婦ヲシテ養殖場内ニ發生セルモノヲ採取セシメ、與ニ得ラルベキ苗介ノ数及蕃殖ノ状態ヲ詳ニスル目的ニ出デ、漸ク其一班ヲ知ルヲ得タルヲ以テ三十四年九月始メテ稚介ヲ着生セシムル…浜島海中養殖場面積四千六百四十三坪ニシテ其壹部ニ母介十二万二千五百五十二顆ヲ放養シ、三十四年九月蠶婦四人ヲシテ四日間之ヲ採取セシメシ、三十三年發生ノモノ壹万四千三百八顆ヲ得、…稚介ハ母介ノ放養区ニアルモノ、ミニシテ蠶婦ニ依リ水底ニ於テ初年生ノモノヲ撰ミ捕採セルモノナレバ…故ニ採苗ノ法方完キヲ得バ…蠶婦ヲシテ充分捕採セシメバ二万以上ノ稚介ヲ捕採シ得ベキナリ、是ヨリ打算シテ本場養殖地ニアリテハ母介十萬顆ヲ放養シテ年々二万以上ノ稚介ハ蠶婦ニヨリテ得ラルハモノトス	
22~23	七、種苗ト其処理及放養率	移植ノ効果ヲ挙クルト否トハニ位置ノ適否ト種介ノ撰択ニ係ルモノナレバ今後事ニ望ムモノ注意ヲ要スベキ事ナリトス、人為養殖場上ノ苗介ニモ亦自ラ適否アリ、株苗法ノ完全ヲ期シ一時ニ数多ノ着生ヲ得ルニ至レバ取テ以テ養成地ニ移スベク、此間体形ノ大小ニ顧慮スル事少ナルベキモ蠶婦ヲシテ之ヲ捕採セシメ、又ハ水上ヨリ攫捕スルノ場合ニアリテハ猥リニ稚介ヲ捕獲スルモ徒ラニ纖弱ノ稚介ヲ斃ス事多キノミナラズ其捕採上ノ困難又尠ナカラス	
31~33	九、整理ト取揚ト介ノ処理	之(種苗)ヲ放ツニハ…任意海中ニ投ズルニアリト雖モ海深キヲ以テ放養後ハ蠶婦ヲシテ底床上堆積セザル様平均ニ撒布セシムルヲ要ス、蠶婦雇入ニ困難ナル処ニテハ予メ注意ヲ加ヘ放養ノ際一ヶ所ニ堆積セザル様ニスベシ、…苗介放養ニアリテハ養育期間満四年乃至七年、種介放養ノ場合ニハ満二年乃至四年間ヲ適當ナル養育年限ト云フヲ得ベキナリ、養育セシしんじゆかひヲ取揚クルニ蠶婦ヲ使用スルヲ最モ便ナリトスレトモ、之ガ備入ニ困難ナルトキハ(省略)ニ示ス介挾ヲ以テ之ヲ捕リ上げ、又ハ小桁網ヲ使用ス、小桁網ハ海底ヲ攪把スル事甚シク石ト共ニ取揚グルヲ以テ再ビ地盤ヲ整理スルノ煩アリ	
52~58	一三、經濟的關係	三十六年本場ニ於テ取揚処理シタルしんじゆかひ収納狀況 取揚總數 五万六千六百七十二顆 貳百貳拾円八拾六錢九厘 ・満五年以上百顆總収入額 金六拾貳錢三厘 ・満四年以上百顆總収入額 金三拾八錢 ・満三年以上百顆總収入額 金三拾壹錢九厘 ※(老成ノモノ…殊ニ其繁殖ヲ幫クルニ於テ多大ノ効果ヲ来ス) 一金五円參拾五錢 しんじゆかひ老万顆捕採及処理費 内 金四円 捕採蠶婦 八人 一人一日金五拾錢 金參拾五錢 全補助人夫一人 一人一日金參拾五錢 金壹円 剥身女人夫五人 一人一日金貳拾錢	百顆ニ付平均三拾八五錢九厘
		收支計算 一金老千七拾參円五拾錢 創業費 内 金壹千円 母介貳拾万顆 壹万顆 五拾円ノ割 金五拾円 放養区整理費(石ノ撒布 一艘拾錢) 一金參百五円八拾錢 壹ヶ年収入額 内 金百拾五円 空殻五百貫匁 金拾円八拾錢 肉身二石四斗 金壹百八拾円 真珠十八匁 (「ケシタマ」ノ普通価格で計算) 一金參拾七円貳拾五錢 壹ヶ年總經費 借地料ヲ計算セズ 内 金七円五拾錢 苗介取揚及放養費 但シ蠶婦十五人 金參円 手入費 但シ人夫十人 金貳拾壹円七拾五錢 養育母介取揚介処理人夫 但シ蠶婦四十人 男人夫 金五円 取揚介処理人夫 但シ女人夫二十五人 一金二百六拾八円五拾五錢 差引純益金 即老万顆ニ付 金五拾參円七拾壹	百顆ニ付五錢參厘五毛

※「ケシタマ」: 量二厘以下ノモノハ凡テ「ケシタマ」ト總稱シ、形状色澤劣等ノモノヲ「アンイリ」又ハ「ドロタマ」ト稱シ共ニ価値最モ低シ…真珠ノ形状色澤完全ナルモノハ貴重ナル裝飾品…其形態不良又細粒ノモノハ凡テ薬用品トナシ、主トシテ眼病又ハ発汗劑ニ配用セラレ

『三重県水産試験場事業成蹟』第1巻(明治38年4月発行)続き

題: 附録 三重県下ニ於ケルしんじゆかひ繁殖ノ状況

真珠介捕採ニ従事スル漁業者 各村役場調査

地名	種別	明治26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
浜島	蟹婦	—	33	36	37	34	34	39	33	32	33
	挾捕	—	52	61	67	73	53	63	63	67	72
越賀	蟹婦	不明									
和具	蟹婦	不明						50	150	150	150
	挾捕	不明						ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
布施田	蟹婦	—	118	120	115	121	130	126	138	141	139
	挾捕	—	15	13	16	12	13	17	16	17	15
片田	蟹婦	—	15	17	17	19	20	22	25	25	26
	挾捕	—	ナシ								
立神	蟹婦	—	ナシ								
	挾捕	—	10	10	10	10	10	10	10	10	10
神明	蟹婦	—	20	18	20	23	25	38	30	25	30
	挾捕	—	30	30	28	30	37	55	40	45	50
鵜方	蟹婦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	挾捕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
迫間	蟹婦	—	41	41	41	41	41	41	41	41	41
	挾捕	—	23	23	23	23	23	23	23	23	23
阿曾	蟹婦	—	5	5	6	6	—	8	—	8	9
	挾捕	—	63	68	74	85	—	92	—	94	110
方座	蟹婦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	挾捕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	蟹婦	—	232	237	236	244	250	424	417	422	428
	挾捕	—	193	195	208	224	126	250	142	246	270

資料8 『三重県水産試験場事業報告』にある蟹婦の記述

年度	項目	内容
明治33	浜島海中養殖場	岩石…三十三年二月十三日ヨリ三月八日ニ至ル間ニ其投入ヲ了リ、五月十二日ヨリ十七日ニ至ル五日間蟹婦ヲシテ所々堆積散乱セル投石ヲ海底一面ニ並列整理セシメ、其区域ヲ整然タラシメタリ 珠母放養 養殖場ノ整理已ニ終リタルヲ以テ六月ニ入り漁民ノ採取セル珠母ヲ購入シ母介トシテ之ヲ養殖場ニ放養シタリ、珠母ハ浜島湾及鵜方湾ニ発生セル二年生乃至五年生ノモノニシテ蟹婦ニヨリ採取セラレ、礫石介殻ニ着生セル儘又ハ個体ノモノヲ養殖場ニ移シ翌日蟹婦ヲシテ養殖場内団集散乱セル珠母ヲ拾ク敷石区域内ニ撒布シ敢テ厚薄ナカラシメ七月二日ニ至リ全ク放養ヲ終了セリ
	越賀海中養殖場	珠母ノ附着材料トシテ浜島養殖場ト等シク…岩石ヲ採取投入シ、三十三年五月十九日蟹婦ヲシテ之ヲ整理セシメ区域内ニ著シク一層ニ撒布セシム…七月一日ニ入り第一区ヨリ第四区ニ至ルマデ珠母ヲ放養ス…放養後ハ蟹婦ヲシテ団集散乱セルモノヲ一様ニ整理セシメタリ
明治34	浜島海中養殖場	珠母ノ稚介ハ多ク沿岸三尋以内ノ処ニ着生スルモ皆母体ト共ニ叢生スルヲ以テ本年九月下旬ヨリ十月上旬ニ亘リ蟹婦ヲシテ養殖場内ニ発生セル稚介(三十三年夏秋ノ候及発生セルモノ)ヲ採取セシメ、別区ヲ設ケテ茲ニ放養セリ
明治36	浜島海中養殖場	真珠介拾壹万三千顆ヲ捕採及処理スルニ要セシ費用 一金三拾七円 真珠介取揚蟹婦賃
		本年九月廿五日一大赤潮ノ出現ニ遭遇シ…時(十月一日)捕採整理中ニアルヲ以テ以後放養スルコトヲ中止シテ、之ヲ他ニ避ケ蟹婦ヲシテ親シク状況ヲ調査セシメモ此間ニ於テ真珠介ノ斃死ヲ来タシモノヲ認メサリシ、以後降雨連日ニ亘リシヲ以テ十月六日ニ至リ蟹婦ヲ再ビ養殖場ヲ檢セシメニ茲ニ始メテ甚シキ害ヲ被リタルヲ知レリ 赤潮ノ状態…以上ハ蟹婦ニヨリ凡テ実見セシメ処ナリ、赤潮ノ水温比重 蟹婦ノ実験ニヨル水底ニテ赤潮ニ触ルハトキハ特ニ温度ノ低キヲ感シ異甚シト云ル
明治37	北牟婁郡長島海中養殖場施設	本年七月創始セシモノ…苗介ニ供シタル真珠介ハ志摩国英虞湾産ノモノニシテ…七月二十日漁船二艘ニ積載シ、午後二時長島着三時直ニ放養ス…二十一日ヨリ二十二日ニ亘リ蟹婦ヲシテ之ヲ整理セシメ
明治41	北牟婁郡長島海中養殖場施設	卅七年度放養ヨリ四十一年五月処理結了ニ至ル迄五ヶ年ニ於ケル収支計算…金六拾六円 運搬費採捕整理用蟹婦 備入賃延一百十人

資料9 『真珠新聞』連載「父・御木本幸吉を語る」(乙竹あい著)に見る海女の記述

※真珠新聞：1951年創刊、株式会社真珠新聞（東京都台東区）月3回発行

御木本幸吉の4女 岩造の妻 明治22年12月20日生まれ、「父を語る」連載中

※乙竹あい：の昭和58年2月21日死去（93歳）、子息乙竹宏氏の聴き取りで記事掲載されていたので、以後も乙竹あい名で続く（No.99まで）

号数	発行日	No.	タイトル	海女に関する記述
820	昭和 56.3.1	16	真珠貝養殖	父・御木本幸吉は神明村で海面を借用、明治21年9月11日初めて真珠貝を放養。英虞湾・伊勢湾の海女さんや組合から真珠貝を買いとり、これをシュロの囲いの中で放養…しかし、これは大変な作業で、今の様に真珠貝が網の中で飼われるわけでないなく、たこ・ふぐなどの動物に喰われる危険が多く、また貝そのものもパイソクと呼ばれる足で動き、潮流に流され区画外へ逃げる。幸吉自身も海中へ飛び込み海女たちと共に貝の管理をするわけで、あこや貝との戦にずいぶん手をやいたと察せ
822	56.3.21	18	真珠そのものの養殖発想	父はこの頃真珠貝の養殖場を造り、海女から真珠貝を買って放養することをやっていた…実際貝そのもののがかなり高価なものであるばかりか、サザエ・カキ・ハマグリのように食用に出来るわけでもなく、結局養殖経費倒れになる。もちろんなかに天然真珠が出れば一挙に経費を償えるが、その確率は低い。
827	56.5.21	23	養殖事始め	あこや貝にしても今の様に金網のなかに飼っているわけではなく、潮流や貝の移動で養殖場外へ出てしまう貝もあり、その分は海女さんから買ったすこともしなければならず、大変な苦勞の時代だった。
829	56.6.11	25	赤潮考	明治時代においては真珠の敵は赤潮が第一で…赤潮に対する対策の主役を演じたのは日本特有の職業婦人である海女たちであった。つまり、明治33年と明治38年の赤潮のときは海女たちが海底から真珠（貝）を拾い上げ、竹駕に入れて赤潮のない地域の海底に避退させた。特に明治38年には、1月の寒風吹きささぶ海に海女たちが飛び込んで貝を救った。明治時代における父の戦いは海女部隊を引きつれての赤潮との戦いだったといえる。
835	56.8.21	31	半円真珠の量産	年々核入れを増加し、明治35年には百万個の真珠貝を海中に放養出来る様になり、一応半円真珠の量産態勢は確保出来、販売ルートも整いつつあった。しかし、今日の様に真珠貝が稚貝から養殖出来るわけではなく、1個ずつ海女さんが海に潜って取ったから、その苦勞は大変なものだった。また核を入れた母貝も今日の様に網籠の中に飼われるのではなく、「地飼い」といって海底で、いわば外敵に晒され裸のまま飼われているので外敵を追い払う海女さんたちの労力も大変なものであった。父幸吉のよく「自分が今日あるのは海女たちのお蔭だ」と言っていたのはこの頃の苦勞を思っていることでしょう。真珠の外敵といえば…タコ・フグ・ウナギなど貝を食う動物やミルモと呼ばれる海藻などであった。これに対して海女さんたちの作業というのも今から思えば大変原始的なもので、地飼いの貝を遊泳しながらパトロールし「ヒシ」という「矛」の様なものを持ってフグ・ウナギ・ツエなど真珠を食う魚類を追い払い、タコなどは突き刺して殺しミルモなど海藻類が生い茂るのを取り除くという作業が根気よく行われていた。そして、それ等のいづれの敵よりも恐いものはこの当時は「赤潮」だった。
859	57.5.21	47	明治三十八年	この年の（明治38年）1月…多徳島の養殖場は従来にない赤潮に見舞われ、ようやく量産化されはじめた地飼いの真珠貝が絶滅に瀕することになった。当時、多徳養殖場では約百万貝の稚貝を養殖していたが、その母貝の八五万貝が死んでしまったので、倒産寸前までいったいた。この時の話で、父幸吉が海女さんたち二百人を集め、あらゆる潜水具をかき集め、厳寒の海に飛び込んで貝を活籠に拾い上げ、赤潮の域外へ避退させた。その時父のいった言葉はいかにも父らしい言葉として今も残っている。「今から海女の給金は五割増。労働時間は五割減。薪は三倍だけ、薪がたらなければどの山からでも切ってこい。グズグズいたら値段の二割増しで買ってこい。今戦場で兵士たちは命がけで戦っている。われわれは命がけで貝を助けるのだ」。
864	57.7.21	52	禁酒禁煙	半円真珠が出来、これを掲げて養殖真珠にその命を賭ける。心を引き締めるために酒煙草を絶った。しかし、他面酒や煙草の効用を無視したわけではない。特に酒は海女などが海中から上ったとき温まるのに必要なもので、養殖場には緊急用酒は用
891	58.5.11	66	宣伝術あれこれ	真珠養殖に成功してからは真珠一特に養殖真珠のPRに重点がおかれ、いろいろな行事を人にみせた。海女の作業、真珠の連組み、細工過程、真珠誕生の瞬間など、演出してジャーナリストや有名人に見せてきた。…三重県特産物一松阪牛は有名になったのは戦後であるが、戦前から伊勢海老、真珠と共に海女さんの採るあわび、現在も有名な矢鱈など一お国自慢と共に食べて戴くことができた。真珠貝のフライなども父が考え出した。
911	58.12.11	76	観光産業	大正時代に父が「とにかく養殖場を見てくれ」といい、大日本水産会長の小松の宮をはじめ水産会副会長の田中芳夫さんなどに養殖場を見て頂き、いろいろお智恵を拝借しながらだんだん観光施設を整えていった。…真珠産業を見に来て下さった方には何よりもこの風光が歓迎材料であった。それに潮騒の音、海女笛の音が静かな海に流れ、歓迎の音楽になった。海女さんといえばこの日本特有の職業婦人一万葉の歌にも歌われ父と苦勞を分ち合った海女さんたちは、またその技能を見せ養殖場の訪問者の喝采を博した。特に外国人には海女の作業のエキゾチックな魅力が当たった様である。また海女さんの取ってくれる「アワビ」や「サザエ」の新鮮な味が観光客のサービスに役立った。
928	59.6.21	82	皇太后陛下	皇太后様が鳥羽の父の家へお泊まりになったのは昭和12年6月7日のこと、…当日…雨がザンザ降りしきり…傘をおさしになり、仮の橋の上を…真珠島にお渡りになった。父が…半円真珠から真円真珠を造り出すまでの履歴を申上げるのを…うなづきながらお聴き下さった。ついで10隻の船に便乗した150人の海女さんが水しぶきを上げて雨中の海に飛び込み、真珠貝取り作業をするのを興味深げに御覧になり、「何秒くらい潜水出来るか?」など御下問があった。

和具漁業組合文書（海の博物館所蔵）

拜啓去ル参拾日御協議相煩シ候、英虞湾ニ関スル漁業者ノ陳情書本日直使ヲ以テ御調印ヲ求メシメ候間、万一郡長ヨリ其人々ヲ召喚相成説諭ヲ加フル等ノ事有之ヤモ難計ト存候ニ付テハ其辺御如才ハ無之候得共、可成相当ノ答辞シ得ラル、方ヲ御撰ヒ置相成度、尚各村長ノ添書ハ式ニ背クノ憂有、添付セサル事ニ相定メ候間、右御諒知相願候也

明治参拾六年五月式日

各位

委員

陳情書

漁業法施行規則ハ本邦從來ノ慣行ニ遠ザカリ我等漁民ニ打撃ヲ与フル事最モ甚ダシク日夜嘆息罷在候処、今又一大怪聞ヲ伝フルモノ之アリ、此事果シテ定ナリトセバ我等ハ將サニ生活ノ途ヲ失ヒ一家ヲ離散シテ憐ミヲ江湖ニ求ムルノ境ニ近ツキツ、アル場合ナルニ由ニ粗急ヲ顧ミズ一書ヲ載シテ茲ニ陳情仕候

英虞湾ハ本郡南部数千ノ漁業者ガ四時ニ餌鱒ヲ需ムル枢要ノ漁場ニテ祖先以來年々幾拾万円ノ漁業収得ノ多クハ其元資ヲ此湾内ニ得テ以テ辛クモ妻子ノ口ヲ糊シ漸ク国民ノ義務ヲ果シ来タリ候処、近年神明鵜方式ケ村ノ一局部ニ真珠養殖場ヲ設置シ実ニ伴ハザル社会ノ好評ヲ博シ得タル鳥羽町住民御木本幸吉ナル者漁業法ノ実施ヲ奇貨トシ此ノ湾ノ大部分ヲ右養殖ノ区割漁場ト為

サントシ当局又聊カ之レニ耳ヲ倒ケラレントスル場合ニ遭遇シ居候趣未ダ以テ我等ハ容易ニ信ヲ置キ難ク且ツ其区域ハ直接地先水面ニ關係無之候得共、若シ他日此風聞ノ実トナリテ頭ル、事有之トキハ前文縷述ノ如ク釣魚漁業殊ニ鯉漁ニ於テ著シキ影響ヲ及ボシ可申、仮リニ其一例ヲ挙ゲレバ御木本ノ事業ハ多数ノ蚕婦又ハ潜水器ヲ使用シテ海底ヲ攪乱スルガ為メニ多クノ小鰯ヲ減スル次第ト相成、又岩石ヲ沈没セシメテ貝ヲ助クル結果終ニ鰯網使用ヲ為ス能ハザルニ立至ル事現ニ神明鵜方面村ノ地先水面ノ一部即チ御木本ノ養殖場ニ於テ好模範ヲ示シ居候顯著ナル事実ニシテ、要スルニ御木本ノ事業ト餌鰯捕獲ノ事業トハ同一区画内ニ於テ共々営ム事能ハザル氷炭相容レザル關係アル漁業ニシテ深ク御賢察ヲ蒙ラザルベカラザル事柄ニ候間、万一右風説ノ不幸ニシテ事実トナリテ閣下ノ机辺ニ上リ候事モ有之候ハゞ我等多数ノ漁民ハ先天的ニ得來リ候漁業ヲ捨テ、他ニ求ムベキ生計ノ途ヲ知ラザル者ナル事ヲ憐察セラレ、以テ前御木本ガ經營シ來リ候ケ所ハ今更詮方無之候得共、他ノ部分ニ於テハ一切御許可ヲ下サレサラン事ヲ伏テ哀願仕置候也

明治参拾六年五月式日

資料11 昭和14年のサンフランシスコ万国博「海女」実演問題（当時の新聞記事より）

No.	新聞名	発行年月日	見出し	概要
1	伊勢新聞	昭和14. 1. 25	志摩の海女さんが 桑港万国博で実演 数百名から選りぬい た三女 二月神戸出帆渡米	桑港万国博覧会事務局から同博へ真珠即売店を出すことになっている度会郡南海村北村真珠養殖場へ「老練の海女二、三名」の渡米依頼。浜島町の海女組合長H氏に託して人選、海女三名（T28歳、S45歳、H氏妻38歳）と付き添い二名が決定し、県へ渡航免許状の申請。「三人とも技量にかけては抜群だ、女の腕一本で一家を支る雄々しい志摩の海女さんの真の姿をあちらの人に見せるといふのが目的となつてゐるが、見るからに頑丈な赤銅色の体を潜らせて、海の幸を漁る海女の作業にさすがのヤンキー氏を驚倒させてやろうと意気込んでゐる」。H氏の話「二月十九日の開場式までに到着するやう云つて来てゐます、あちらでは水槽で実演をやるそうですが、ほんとの海女の洋行はおそらくこれが始めてゝないかと思ひます、しつかりやつて来ますよ、さア十ヶ月ほどの滞在とか聞いています」
2	伊勢新聞	昭和14. 4. 18	神聖な海女達を 興行とは怪しからぬ 志摩水産会長声明書 発表	桑港万国博に於ける海女さんの協定?違反問題は俄然センセーションを捲き起し、顔に泥を塗られた県当局も厳然たる態度で臨むことになつたが、二人の若い海女さんを送つた地元志摩郡でも問題を極めて重大視し郡水産会では近く石原会長の名を以て遺憾の意を表し、今後再びかゝる醜態を演じないことを誓つた、声明を發するとともに郡漁業組合に郷土産業の第一線戦士である海女を興行の対照とせないやう厳重監視することを強要し、郡内数千の海女に向つては 国宝的存在 である神聖なる海女作業を心なき事業家の宣伝用具に使用されることのないやう自戒を促すことになつた、右につき志摩水産会長石原円吉氏は語る「今回の問題は極めて遺憾な事である。県当局に対する誓約を破つた事業家のやり方に対しては県当局でも適切な処置をとるだらうことを期待してゐる、水槽に若い女のあられもない姿態を見せることは実に国辱である、今後は絶対海女を興行の対照としないことにするつもりであると同時に好餌をもつて海女を誘惑することについては厳重監視の目をおこたらないつもりである」。
3	伊勢新聞	昭和14. 8. 10	固い約束破つた海女 関係者数名を波切署 へ召喚 愈よ本格的取調べ	「決して致しません……」との固い約束を破つて碧眼の面前にあられもない姿態を現したサンフランシスコ万国博出場の海女問題は県当局の威信を傷つけることおびたゞしく、その帰来後の一波瀾を予想させてゐたが、…県特高課外事係倉田警部補は去る七日波切署に出張、帰つて来た問題の海女、志摩郡和具町N1（20歳）・N2（18歳）の両女から事情を聴取するとともに俄然緊張裡に八日朝来北村商会の依頼で両女を推薦した同郡浜島町某氏、渡航免許状下附申請の手續きをとつた同郡和具町某氏ら関係者六名を同署に引致、また今日注には問題の中心人物と目せられる某氏の出頭もみられしく、いよいよ問題の核心をつくべく本格的取り調べを開始した。
4	大阪毎日新聞	昭和14. 8. 15	踊らされた海女 黒幕は横浜のK1某 海女の国辱問題取調	サンフランシスコの万国博で海女の実演を行ひ問題を惹起し遂に本国に帰還を命ぜられた志摩郡和具町N1（20歳）同N2（18歳）の両女をめぐる渡米目的の真相については県特高課で関係者を取調べ中のところ、両女や地元関係者には何ら他意なくただ横浜市のK1某が某外国人と語りひ最初より海女の実演を目的とし表面真珠養殖技術の公演といふ名目で浜島町の北村商会を通じ和具の某氏に海女の渡米斡旋を依頼、渡航免許状をもこれによつて下附を願出たといふのであり、結局当局としてはK1某らを取調べることゝなるらしい
5	伊勢新聞	昭和14. 11. 8	問題の海女 外国旅券取締規則違 反として 山田検事局へ送致	志摩郡和具村出身当時横浜市在住真珠商K1（51歳）浜島町同K2（37歳）和具村同O（44歳）等は今夏サンフランシスコで開催の万国博覧会場内に於て真珠の宣伝販売に従事するため和具村から海女N1（21歳）IM（20歳）IK（20歳）の三名を同伴渡航を出願し、その際海女を裸体にして潜水実演させることは国辱であるから実演せしめないといふ条件付で渡航を許され外国旅券を下付されたに拘らず渡航するや条件を無視して盛んに実演せしめたので当時問題となり帰国を待つて厳重取調中であつたが、此のほど一段落ついたので七日波切署から前記六名を外国旅券取締規則違反として一件書類を山田区検事局へ送つて来た。